海外派遣授業事業　終了報告書

氏名: 松波　雅俊
所属: 総合研究大学院大学 生命科学科遺伝学専攻
派遣先国名: ドイツ連邦共和国
派遣先機関: University of Konstanz, Laboratory for Natural History of the Genome
派遣期間: 2011 年 8 月 15 日 - 9 月 30 日

海外派遣先大学について

コンスタンツはドイツの南端にあり、ドイツ連邦とスイス連邦のちょうど国境に位置している。町の中心であるコンスタンツ駅の右側はドイツ、左側はスイスという二つの国をまたいで発展してきた都市である。また、ヨーロッパでは観光地として有名なボーデン湖（コンスタンツ湖）に隣接しており、滞在中はちょうど夏休暇中だったこともあり、多くの観光客を見かけた。コンスタンツ大学は、このコンスタンツにある州立大学である。ドイツ九大エリート大学の一つとされている。1965 年に新しい形式の教育・研究方法を取り入れた新しい大学を設立することを目的として組織され、その結果 1966 年に創立されたヨーロッパでは比較的新しい大学であり、大学は 13 の学科からなる。私の派遣先は生物学部であったが、社会学系の学部も世界的に有名であるらしい。

ヤン・フスの処刑が決定したコンスタンツ公会議もここで開かれた。
写真は会議に使用した建物。

海外派遣前の準備

まず、派遣先決定までの経緯について述べたいと思う。私は、はじめは海外派遣にそれほど積極的ではなかったのであるが、総研大における指導教官がサバティカルで長期間、フランスに滞在するため、その間にあなたも興味あるラボに行ってみてはどうかと勧めてくれたので、海外派遣事業に応募することにした。このように受動的な理由であったが、結果として得られたものは大きかったので、後輩の方々もチャンスがあれば、どんな理由であれ応募してみることをお勧めする。次に受入研究室を決定した。現在、私は、脊椎動物のゲノム進化に興味を持ち、データベース解析や次世代シークエンサーを用いた配列解析をおこなっている。同じような興味を持っている人の中から候補を絞り、最終的にコンスタンツ大学の工樂樹洋博士に依頼することに決定し、メールを送付した。すぐに返信が来て快諾を頂いたので、派遣先とすることとなった。

その後、何度か受入先教官とメールや電話でやり取りをして、詳細について話し合った。滞在先の住居は、受入先教官に直接、大学の近くの留学生用のアパートを予約して貰った。ちょうど、ヨーロッパでは学期末の時期であったので、幸運にも比較的スムーズに予約することができた。また、出発前に一度、学会で受入先教官と直接話し、滞在計画の詳細について詰めた。

海外派遣中の勉学・研究

日常生活：滞在中は基本的に午前 9 時ごろに登校、午後 7 時ごろに帰宅という生活サイクルだった。私の所属した研究室は講座制であり、Seminar や Lab meeting は、シグリッドの種分化の研究で著名な Dr. Axel Meyer の研究室、ゼブラフィッシュの研究をおこなっている Dr. Gerrit Begemann の研究室と共同であった。特に Dr. Axel Meyer の研究室には多くの人が所属し、頻繁に議論がおこなわれているのが印象的であった。私自身も、一度 Lab meeting で話させて頂き、多くの助言を頂いた。また、日本で準備してきた投稿用論文を受入先教官に読んでもらい、コメントをもらった。他にも解析から得られるデータの解釈や、生物ごとのゲノムの特徴について教わった。普段、Genome-wide での解析をしてきるとどうしても細部については粗くなってしまうことがあるが、目的を絞り、遺伝子族ごとに詳細に解析しなければわからないこともあるので、このようなジレンマを今後、どのように解決するかが特に重要だと感じた。

学会・シンポジウム：滞在中にコンスタンツからアクセスがしやすい、2 つの meeting に参加した。一つは、チュービンゲンでおこなわれた the 13th Congress of the European Society for Evolutionary Biology である。これは日本にいる間に参加の申し込みをしていたが、締め切りの関係で発表はすることができなか

った。私がいつも参加している学会とは少し趣が異なり、主に生態学が中心の学会であったが、興味がある話題も多くあり、ヨーロッパの生物学の懐の深さを感じた。もうひとつは、スイスのバーゼルで開かれた Biozentrum 40-Year Jubilee Symposium である。主にバーゼル大学の同窓生が発表者で、リストを見るとノーベル賞受賞者が何人もおり、その伝統に驚いた。

コンスタンツの街のシンボルであるインペリア。

ボーデン湖では夏のバカンスを楽しむ人が多い。

海外派遣中に行った勉学・研究以外の活動

スポーツ：私は遺伝研サッカー部に所属しており、ドイツでも息抜きにサッカーができると受入先教官に聞いていたので、用具一式を持って行った。ドイツでは週に何回か大学の近くの公園でラボのメンバーとミニゲームをした。ドイツでは、どのような公園にも必ずサッカー用のゴールが設置してあり、最近プロリーグができたばかりである日本とは歴史が違うなと感じた。また、休日には地元のアマチュアチームの試合を観戦したり、バーでブンデスリーグの試合を見たりした。

ボーデン湖観光：日本ではあまり知られていないがヨーロッパではボーデン湖周辺は世界遺産もあり、風光明媚な観光スポットとして有名である。私もフェリーに乗って、コンスタンツの対岸の町であるメーアスブルグを訪れたり、ボーデン湖に浮かぶ「花の島」と呼ばれるマイナウ島を見て回ったりした。

オクトーバーフェスト：ドイツでは、毎年 9 月下旬から 10 月にかけてオクトーバーフェストというビール祭りが開催される。この祭りの時期はドイツ人は民族衣装に身を包む。ミュンヘンで開かれるものが特に有名であるが、各都市でも独自に開催され、ここコンスタンツでも小規模ながらテントが張られ祭りがおこなわれた。私は 9 月末に帰国する予定だったのでギリギリだったが、幸運にもこの祭りに参加することができた。本場のビールは美味しく大満足であった。

海外派遣費用について

航空券は旅行会社の人と相談し、約 35 万円のものを購入した。1 ヶ月半の滞在期間なのでこれぐらいの値段はするものだと考えた方がいいだろう。家賃は、良い物件が出発前に取れたので、月 400 ユーロ以下に抑えることができた。大学までは徒歩で通学したので交通費はかからなかった。食事は、昼食には大学の食堂を利用した。非常にリーズナブルで 5 ユーロ程度で満足いく量食べることができた。味はまあまあだった。夕食は主に自炊だった。近くのスーパーで食材を買い、料理をした。メニューは、安くて簡単にできるパスタが中心だった。それに飽きた時は、ラボの友人と外食した。コンスタンツには色々な国の料理屋があり、安く様々な料理を味わうことができる。特にトルコ料理は安く、量も多いのでお勧めだ。ドイツに滞在する方は試してみてください。

海外派遣先での語学状況

研究室：私の滞在した研究室では英語を公用語として、Seminar や Lab meeting

がおこなわれた。研究室には、スペイン、イタリア、ギリシア、ブラジル、韓国、中国などから来た人々が多くいたので、日常会話も英語だった。ドイツ語が分からなくても、皆、英語はわかるので、語学について問題を感じたことはほとんどなかった。また、受入先教官が日本人であり、近くに日本語を理解する人がいたことは非常に心強かった。

市街地：大学の外では、基本的に英語は通じず、ドイツ語で話さなければならなかった。一応、大学のときに第二外国語としてドイツ語を勉強していたのでその知識が役に立った。また、よく使う言葉は他の留学生に教えてもらったりした。

花の島と言われるマイナウ島。
他にも多くのオブジェが見られた。

地元チームの試合ではアマチュアにも関わらず、
多くの人が観戦に訪れていた

海外派遣先で困ったこと

派遣前にクレジットカードを海外でも使用できるように設定にすることを忘れてしまい、仕方がないので出国時にお金を多めに円からユーロに換金して持って行った。多くのお金を持ち歩くというのは、落ち着かないので、やはりクレジットカードは使えるように設定しておくべきだったと後悔した。

コンスタンツは昼夜の温度差が激しかった。また、冷え込む日も多く、半袖では寒い日が多々あった。夏場だと思い、長袖の服をあまり持っていかなかったので、もう少し暖かい服も持って行くべきだった。

何度か町を散策していたのだが、一度、道に迷ってしまった。通りすがりの人に道を聞いたところ、親切にも車で家まで送ってくれた。コンスタンツは、ドイツでも治安が良い地域として知られており、安全であったが、少し不用心だったかもしれない。また、全く答えられなかったが、なぜか歩いているとよくドイツ人に道を聞かれた。

海外派遣を希望する後輩へアドバイス

私は生れてからずっと日本で生活してきたので（海外旅行をしたことはあるが)、今回の海外派遣は非常に良い経験となった。本やテレビなどで生活する上で様々な文化の違いを感じるということを知ってはいたが、それを実際に肌で感じることができたのは、今後のことを考えても大きな収穫だっただろう。総研大生の方々は、毎日、実験や雑務に追われて忙しく過ごしていると思われるが、もし、私のように海外派遣に応募するチャンスが与えられたなら、それを活かして是非挑戦してほしい。

最後にこのような機会を与えてくださった総研大の関係者各位に感謝します。また、手続きでご迷惑をお掛けした総研大の事務の方々にも併せてお礼を申し上げます。

大学への通学路は森の中だった。